

《研究主題》

郷土愛を育む古典学習の実践

～「おくのほそ道」の書き換え学習で「たねがしま道」を書く～

西之表市立種子島中学校 教諭 宮内 悠子

目次

1 研究主題	2
2 研究主題設定の理由	2
(1) 中学校学習指導要領から	
(2) 本校生徒の実態から	
3 研究主題について	3
(1) 「書き換え学習」とは	
4 研究の実際	4
(1) 単元（教材）名	
(2) 単元の指導計画	
(3) 本時の実際	
○ 「オリジナルたねがしま道」①	
○ 「オリジナルたねがしま道」②	
5 研究のまとめ	9
(1) 研究の成果	
(2) 今後の課題	

〔参考文献〕

- 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』文部科学省（平成29年）
- 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』文部科学省（平成29年）
- 「認識力を育てる『書き換え学習』中学校・高校編」府川源一郎・高木まさき
（東洋館出版社 平成16年）

1 研究主題

郷土愛を育む古典学習の実践

～「おくのほそ道」の書き換え学習で「たねがしま道」を書く～

2 研究主題設定の理由

(1) 中学校学習指導要領から

知識基盤社会化やグローバル化がますます進展する現在は、国際的規模の相互依存関係がより深まっている。将来の我が国を担う中学生は、郷土や国で育まれてきた優れた伝統と文化などのよさについて理解を深め、それらを育んできた我が国や郷土を愛するとともに、国際的視野に立って、他国の生活習慣や文化を尊重する態度を養うことが大切である。

中学校学習指導要領（平成 29 年版）解説総則編には、以下のように述べられている。

第3章 教育課程の組織及び実施

(2) 教育課程の編成の原則（ウ）地域の実態

地域には、都市、農村、山村、漁村など生活条件や環境の違いがあり、産業、経済、文化等にそれぞれ特色をもっている。こうした地域社会の実態を十分考慮して教育課程を編成することが必要である。とりわけ、学校の教育目標や指導内容の選択に当たっては、地域の実態を考慮することが重要である。そのためには、地域社会の現状はもちろんのこと、歴史的な経緯や将来の展望など、広く社会の変化に注目しながら地域社会の実態を十分分析し検討して的確に把握することが必要である。

国語科においても、郷土や国で育まれてきた優れた伝統と文化のよさについて考える実践を行っていく必要がある。そこで、国語科で育成しなければならない資質・能力の中でも特に「知識及び技能」の「我が国の言語文化に関する事項」（古典学習）を通して、優れた伝統と文化のよさについて理解を深めることができるのではないかと考えた。その際に、郷土の史跡や景勝地を使用し、古典教材と関連付けることで、学習意欲を高められるようにしたい。

(2) 本校生徒の実態から

対象学年である第3学年の生徒たちは、明朗快活で、優しく思いやりのある生徒が多く、意欲的に取り組もうとする態度が見られる。また、グループ活動においても、自らの意見や考えを伝え合って課題解決を図ろうと努力する姿が見られる。

令和5年度実施の全国学力・学習状況調査では、「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができる」、「古文と現代語の文章とを対応させて内容を捉える」、「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる」のすべての項目で、本校は全国の正答率を上回っており、古典の理解が定着していることが分かる。一方、「読むこと」の領域では、「読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること」の項目で、全国正答率が54.3%に対して、本校の正答率は45.7%であった。このことから、「叙述に即して読む」力が今一つ定着していないことが分かる。

本研究の前に、事前に対象学年に古典に関するアンケートを実施した。以下はその結果である。（11月27日実施 対象者108人）

① 古典の学習は好きですか。

ア 好き 20%

イ どちらかといえば好き 36%

ウ どちらかといえば苦手 31%

エ 苦手 13%

（理由）

○ 好き・どちらかといえば好き

- 昔の言葉を読み取るのは難しいけれど、意味が分かるとおもしろいから。

- ・ 素敵だと思ったことや美しいと思ったことなどを、文章や和歌などに表しているのがよいと思うし、意味が分かったり情景が想像できたりしたら、昔の時代に行ったみたいでおもしろいから。
- ・ 日常では使わないような表現に触れることで、未知のものをどんどん知っていく体験ができるから。

○ どちらかといえば苦手・苦手

- ・ 昔の言葉は、意味が分からないものが多く、難しいから。
- ・ 日本語であるけれど、日本語ではない、あやふやな感じがするから。
- ・ 古典の内容を理解することができないから。

② 今までの古典の学習を通して、学んだこと、身に付けたことは何ですか。

- ・ 昔の人のものの見方や考え方。生きている時代は違っても、物事の捉え方は今とあまり変わらないということ。
- ・ 昔の人の考え方や感情などは、私たちに共感する部分が多くあるということ。
- ・ 今とは違った言葉を使って難しいけれど、内容を捉えることができるようになったこと。
- ・ 古典文法の知識を身に付けたこと。

③ なぜ、古典を学習しなければならないと思いますか。

- ・ 昔の歴史を知ることで、母国に対する関心を深めていくことが必要であると思うから。
- ・ 日本人が昔から受け継いできた心を、私たちを含め、後の世代へとつなげていくため。
- ・ 日本の昔ながらの文化や習慣を知識として自分の中に取り入れることで、普段の生活と昔を比較して、現代の生活にありがたみを感じたり、日本を好きになったりするから。
- ・ 日本の伝統を受け継いで、未来に残していくべきだと思うから。

アンケートの結果を考察すると、古典が「好き」、「どちらかといえば好き」と答えた生徒の割合が、6割近くを占める。第1学年では「竹取物語」、「故事成語」、第2学年では「枕草子」、「徒然草」、「平家物語（源平盛衰記）」、「漢詩の世界」等、古典の学習を行ってきた。古典の学習を通して、昔の人々が、考えていたことや思っていたことを知ることで、新たな発見があることに喜びを感じている生徒が多い。一方、「どちらかといえば苦手」、「苦手」と答えた生徒たちは、歴史的仮名遣いを読むことや、内容を理解することに難しさを感じている。本研究では、教科書教材「おくのほそ道」を扱う。古典に対して、苦手意識を感じている生徒に対しては、現代語訳や映像メディアを活用しながら、内容の理解を支援し、古典の世界への興味・関心を高めていきたい。

3 研究主題について

(1) 「書き換え学習」とは

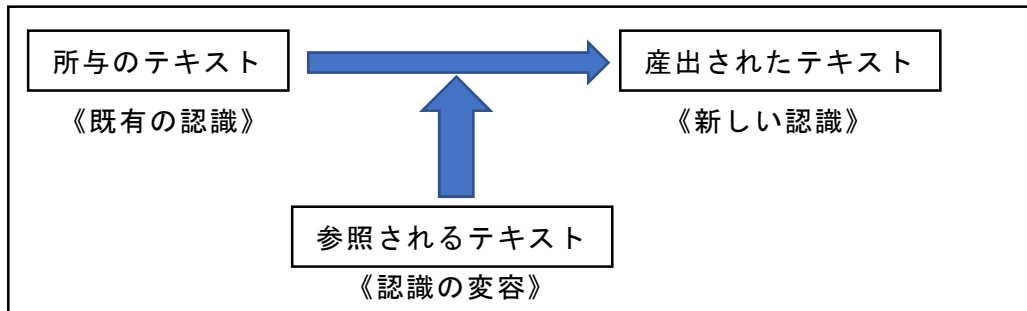
本研究では「書き換え学習」を行う。府川源一郎は、「書き換え学習」を次のように定義付けている。

「書き換え学習」とは何なのか。簡単に言えば、一度書かれた文章を別の文体や別の立場からもう一度「書き換え」る学習活動をする事、だといっていいだろう。

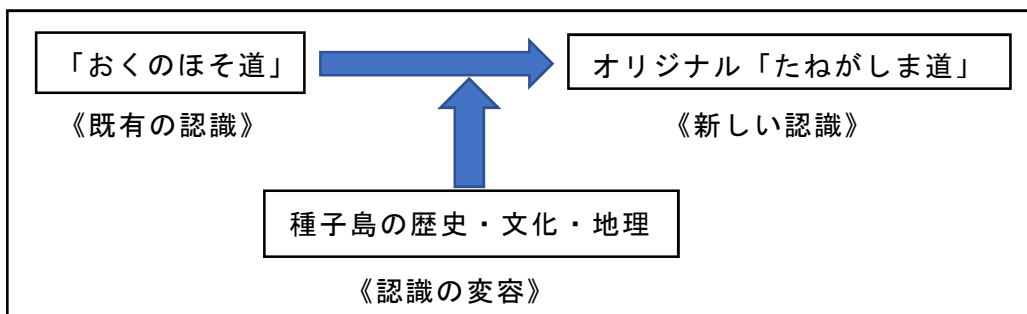
また、府川は、書き換えによる認識の変化を次のように述べる。

その文章を「書き換え」ということは、一度定着した「文字の連なり＝文章」である書き手の認識活動の軌跡を意図的に変更する作業である。書き換えの対象として選んだ文章は、すでにひとまとまりのものとして定着しているから、それを崩したり、膨らませたりするには、改変する側にある程度の「力」が必要になる。文章の理解力や表現力はいうまでもないことだが、着想力、発想力、また連想力などの思考力を総動員して、その作業に当たらなければならない。普通、完成度の高い文章はしっかりとしたできあがりになっているから、別の枠組みに「書き換え」ることは、そう簡単なことではない。

文章を書き換える上で、書き手はテキストを読み、思考の軌跡をたどり、内面の認識の理解に努める。「崩したり、膨らませたりするには、改変する側にある程度の『力』が必要になる。」、「別の枠組みに『書き換え』ることは、そう簡単なことではない。」というように、「書き換え学習」は単なる言葉遊びではない。高木まさきは「書き換え学習」の構造として次の図を提示している。




高木の図をもとに、筆者は検証授業において、次のように置き換えた。


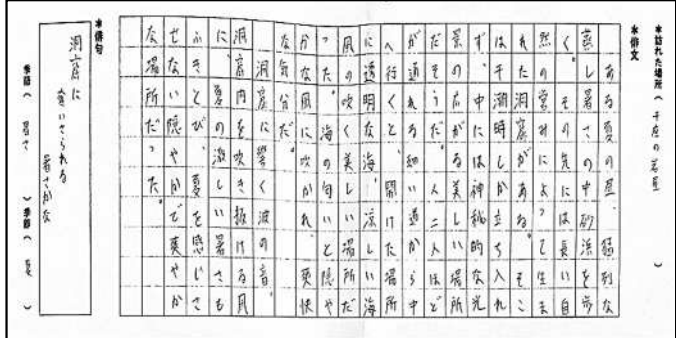


本研究では「おくのほそ道」を踏まえたオリジナル「たねがしま道」を「書き換え学習」を通して創作させる。所与のテキストである「おくのほそ道」の俳文をもとに、「もし、松尾芭蕉が種子島を旅したとすれば、どこを訪れ、どのような俳文を書くか」を本研究の学習課題とする。種子島の歴史・文化・地理を丹念に調べまとめることが、「認識の変容」につながり、「たねがしま道」の完成によって「新しい認識」へと促されることとなると考える。かつて、司馬遼太郎が『街道をゆく』において「種子島みち」を書き著したように、本校生徒にも古人芭蕉が種子島街道を歩いたならどのような俳文を書くかという仮想学習体験を味わわせることを通して、郷土に目を向け、古典に関心をもたせることを本研究のねらいとした。

4 研究の実際（対象：西之表市立種子島中学校 3年3組 36人）

- (1) 単元(教材)名 古典に学ぶ 「おくのほそ道」(三省堂)・創作俳文「たねがしま道」
 (2) 単元の指導計画(全8時間扱い) ※本時(7/8)

時間	主な学習活動	指導・支援上の留意点	評価方法(○) 評価規準(☆)
1	1 学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 2 DVD「おくのほそ道」を鑑賞する。  【映像メディアを活用して理解を深める】	1 学習の見通しをもたせる。 2 映像メディアを鑑賞し、作品の舞台を視覚的に捉えさせる。	○ 観察法, 朗読 ☆ 作品のリズムや響きを楽しんで音読している。

	3 表現やリズムを意識して、冒頭部分を音読し、対句的な表現がもつリズムを味わう。	3 文章の特徴やリズムに気を付けて音読させる。	
2	1 冒頭部分を読み、芭蕉の旅に対する思いをまとめる。 2 歴史的背景などに注意して、作者のものの見方や考え方を捉える。	1 芭蕉の旅についての考えや旅立ちの気持ちを自分の言葉でまとめさせる。 2 現代語訳を参考にしてどのような情景か想像させる。	○ ノート, 発表, 点検法 ☆ 芭蕉の旅のあこがれや覚悟を読み取り, まとめている。
3 ・ 4	1 「平泉」を音読し, 芭蕉の思いを想像する。 2 それぞれの句にこめられた作者の心情やもの見方について考える。 3 「立石寺」を音読し, 情景を想像する。	1 「時の移るまで涙を落としはべりぬ」と書いた芭蕉の思いを考えさせ, 自分の言葉でまとめさせる。 2 それぞれの俳句の中で使われている言葉を, 俳文と関連付けながら, 内容をとらえさせる。	○ ノート, 点検法 ☆ 作品の持つ表現の特徴を理解している。 ☆ 平泉での芭蕉の思いを読み取り, 俳句に表された意味をまとめている。
5 ・ 6	1 松尾芭蕉が種子島にやってきましたら, どのような句を詠むか, 想像して個人で俳文を書く。 ～「創作俳文『たねがしま道』を書こう～ ○ 種子島の景勝地(タブレット調べ学習) ○ 伝えたいこと(テーマ・主題) ○ 季語, 切れ字 ○ 五・七・五の形に整える。	1 「俳句の世界」の既習内容を振り返り, 俳文創作に取り組ませる。 2 俳文を提出させる。	○ ワークシート, 点検法 ☆ 伝えたいことを明確にして, 俳文を作成している。 ☆ 俳文の内容に合った俳句を作成している。
	 <p>【タブレットで種子島の景勝地を調べる】</p>	<p style="text-align: center;">「たねがしま道」下書き</p> 	
7	1 「平泉」, 「立石寺」の段を再度読む。 2 前時で作った俳文について, グループで交流して, 意見を述べ合う。 3 グループ内でもらった意見を参考に表現を練り上げる。	1 「平泉」と「立石寺」の俳文を読み, 芭蕉がどのような視点で書いているかを読み取らせる。 2 友達からもらったアドバイスをもとに, 自分の俳文を見直し, 改善点をワークシートにまとめさせる。	○ ワークシート, 点検法 ☆ 芭蕉が書いた俳文の特徴を読み取っている。 ☆ 意欲的に交流活動に取り組んでいる。
8	1 「たねがしま道」の清書を提出する。 2 これまでの学習を振り返り, 古典の学習を通して身に付けたことをまとめる。	1 前時に考えた改善点を生かした清書を完成させ, 提出させる。 2 古典の学習を通して, 学んだことを自分の言葉でまとめさせる。	○ ワークシート, ノート, 点検法 ☆ 3年間の古典の学習を振り返り, 学んだことを自分の言葉でまとめている。

(3) 本時の実際(7/8の授業)




ア 本時の目標


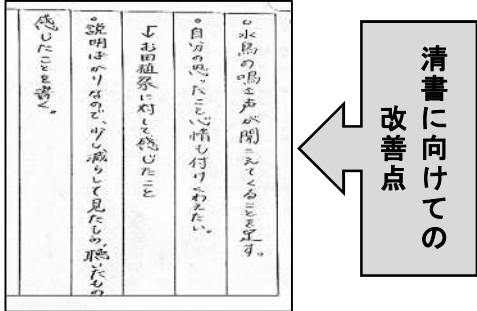
(ア)松尾芭蕉が書いた俳文の特徴を読み取る。【思考力, 判断力, 表現力等 C 読むこと エ】

(イ)作成した俳文を互いに読み合い, 交流し, 清書に向けて改善点を考える。

【思考力, 判断力, 表現力等 C 読むこと エ】

イ 展開

過程	主な学習活動	時間 形態	指導上の留意点 (☆は評価)
導入	<p>1 前時までの学習内容を想起する。</p> <p>2 本時の学習目標を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 芭蕉が書いた俳文の特徴を捉えよう。 ・ 作成した俳文を互いに読み合い, 交流し, 清書に向けて改善点を考えよう。 </div>	5分 個	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの学習を振り返り, 本時のねらいと見通しをもたせる。 ・ 導入で時間がかかりすぎないように, 目標の提示と本時の流れは速やかに提示する。
展開	<p>3 「平泉」「立石寺」の段を再度読み, 俳文の特徴を捉える。</p> <div style="text-align: center;">  <p>【平泉・立石寺の内容を振り返る】</p>  <p>【ペアで書かれている視点を確認する】</p> <p>4 前時で作成した俳文を相互評価する。</p> <div style="text-align: center;">  <p>【俳文を読み合い相互評価をする】</p> </div> </div>	15分 個 ペア	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「平泉」(前半)「立石寺」では, どのような視点で俳文が書かれているか読み取らせる。 ・ 例文を示し, 例文がどのような視点で書かれているか考えさせる。 ・ 個人で考えさせた後, ペアで意見を交換させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈視点〉</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 細かい情景描写(視覚・聴覚) 「秀衡が跡は～功名一時の草むらとなる」 「岩に巖を重ねて～岩上の院々扉を閉ぢて」 「物の音聞こえず」 ② 歴史的背景, 歴史エピソード 「三代の栄耀一睡のうちにして」 「さても義臣すぐってこの城にこもり」 ③ 芭蕉の心情 「時の移るまで涙を落としはべりぬ」 「心澄みゆくのみおぼゆ」 ④ 古人への思い 「さても義臣すぐってこの城にこもり」 ⑤ 俳句との関連 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の俳文を読み, 視点が書かれている箇所印をつけさせる。

	<p>5 友達からもらったアドバイスを参考にし、改善点を考える。</p>  <p>【ワークシートに改善点をまとめる】</p>	<p>10分 個</p>	<ul style="list-style-type: none"> 友達からもらったアドバイスをもとに、自分の俳文を見直し、改善点をワークシートにまとめさせる。 
<p>終末</p>	<p>6 本時のまとめをする。</p> <p>7 次時の予告をする。</p>	<p>5分 個</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習内容を振り返らせる。 ☆ 芭蕉が書いた俳文の特徴を読み取ることができたか。 ☆ 意欲的に交流活動に取り組むことができたか。 次時は「たねがしま道」の清書を確認し、学習への意欲をもたせる。

○「オリジナルたねがしま道」①

〈交流活動によるグループでのアドバイス〉

季語（夏の朔）
～季節（夏）～

*俳句
渚にて歴史のかおる夏の朔

	し	に	か	に	り	う	の	た	閩	頼	に	そ	二	子	こ	影	ハ	今	へ	い	
	た	大	あ	批	入	だ	国	こ	し	し	鉄	こ	千	島	の	響	月	か	行	た	船
	の	き	ん	れ	産	と	な	が	刀	を	で	両	時	海	を	二	ら	後	に	乗	
	だ	な	た	だ	未	化	も	が	刀	を	で	荒	岸	に	け	五	約	た	後	に	
	り	変	か	刀	そ	知	に	な	う	鍛	作	地	買	が	鉄	漂	た	日	四	天	
	う	化	う	鍛	れ	の	成	か	も	治	る	元	の	た	砲	着	南	十	文	歩	
		を	こ	治	の	も	功	か	今	は	こ	の	た	砲	着	南	十	文	歩	種	
		も	そ	の	国	の	し	た	ま	悪	と	刀	そ	を	し	壘	台	年	十	門	
		た	日	執	産	を	た	武	で	戦	を	鍛	う	二	船	風	前	二	倉	に	
		う	本	念	化	取	そ	器	見	手	取	治	た	挺	種	が	の	の	年	岬	

*俳文
*訪れた場所（門倉岬）

視点⑤
俳句との関連

視点④
芭蕉の心情

視点②
歴史的背景
エピソード

【友達からのアドバイス】

- 歴史的エピソードが詳しく書かれていた。
- 細かい情景描写を書き加えたら、もっとよくなると思う。

〈清書に向けての改善点〉

- 少し情景描写が少ないと思った。
- 俳句と関連させられるような情景描写があるとよいと思う。
- 伝えたい内容と関係がない所、いらぬ所をなくして読みやすくする。伝えたいことがよく伝わる文章を書けるようにする。

〈清書後の作品〉

渚	に	て	歴	史	の	か	お	る	夏	の	潮	も	た	ら	し	た	の	だ	ら	う	の	執	念	が	あ	っ	た	か	ら	こ	そ	日	本	に	大	き	な	変	化	を	未	知	の	も	の	を	取	り	入	れ	、	国	産	化	に	挑	ん	だ	彼	ら	誰	も	知	ら	な	い	武	器	の	国	産	化	に	成	功	し	た	そ	う	だ	砲	作	り	を	依	頼	し	た	。	彼	ら	は	悪	戦	苦	闘	し	な	が	ら	を	買	っ	た	そ	う	だ	。	そ	こ	で	、	地	元	の	刀	鍛	冶	に	鉄	こ	こ	に	漂	着	し	、	当	主	の	種	子	島	時	堯	が	鉄	砲	二	挺	八	月	二	十	五	日	、	台	風	の	影	響	を	受	け	た	南	蛮	船	が	馳	せ	た	。	天	文	十	二	年	、	今	か	ら	約	百	四	十	年	前	の	地	良	い	音	を	聞	き	な	が	ら	私	は	昔	の	こ	こ	に	思	い	を	ら	き	ら	と	輝	き	、	潮	の	い	い	香	り	が	し	た	。	波	の	心	歩	で	門	倉	岬	へ	行	っ	た	。	天	候	に	患	ま	れ	、	美	は	き	島	間	港	か	ら	種	子	島	に	降	り	立	っ	て	四	里	ほ	ど	徒	門	倉	岬
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

人を乗せたポルトガル船が種子島に漂着して、火縄銃が伝わった。薩摩藩はその技術を学び、増産を可能にした。学習者は、交流活動において、歴史的背景についての記述を評価された一方、情景描写を増やしたほうがよいとアドバイスされている。視覚・嗅覚を海の美しさ、潮の香りを述べ（視点①）、鉄砲伝来の逸話（視点②）をもとに、当時のことに思いを馳せ（視点③）、「渚にて歴史のかおる」と俳句にしたが、「潮の香る」と掛けており、秀逸な表現となっている。

○「オリジナルたねがしま道」②

〈交流活動によるグループでのアドバイス〉

季節（冬芭蕉） （季節（冬））	*俳句 冬芭蕉 寄り浴う岩を照らしけり	老	面	ん	つ	結	よ	雄	二	岩	つ	立	う	に	後	出	が	る	夫	説	の	種		
		の	に	で	い	い	れ	つ	に	岩	の	は	か	つ	二	仲	は	起	夜	昔	の	岩	子	
		景	反	射	く	る	、	の	な	・	名	な	生	い	つ	良	れ	て	二	嵐	住	近	島	
		色	し	の	冬	仲	岩	、	雌	前	い	ま	た	の	く	寄	さ	ま	は	の	ん	所	う	
		イ	あ	っ	た	り	日	は	に	間	奇	り	縄	呼	ぶ	で	、	た	い	が	大	き	な	
		あ	っ	た	り	日	は	に	間	奇	り	縄	呼	ぶ	で	、	た	い	が	大	き	な	な	岩
		あ	っ	た	り	日	は	に	間	奇	り	縄	呼	ぶ	で	、	た	い	が	大	き	な	な	岩
		あ	っ	た	り	日	は	に	間	奇	り	縄	呼	ぶ	で	、	た	い	が	大	き	な	な	岩
		あ	っ	た	り	日	は	に	間	奇	り	縄	呼	ぶ	で	、	た	い	が	大	き	な	な	岩
		あ	っ	た	り	日	は	に	間	奇	り	縄	呼	ぶ	で	、	た	い	が	大	き	な	な	岩

視点⑤
俳句との関連

視点①
細かい情景描写

視点②
歴史的背景
エピソード

【友達からのアドバイス】

- 芭蕉の心情をもっと入れたらいいと思う。
- 歴史的背景やエピソードが詳しく書かれていた。古人への思いを入れたらもっといい。

〈清書に向けての改善点〉

- 歴史的背景の中に古人への思いを入れる。
- 最後に芭蕉の心情をふくらませて、芭蕉の感動をうまく表現したい。

〈清書後の作品〉

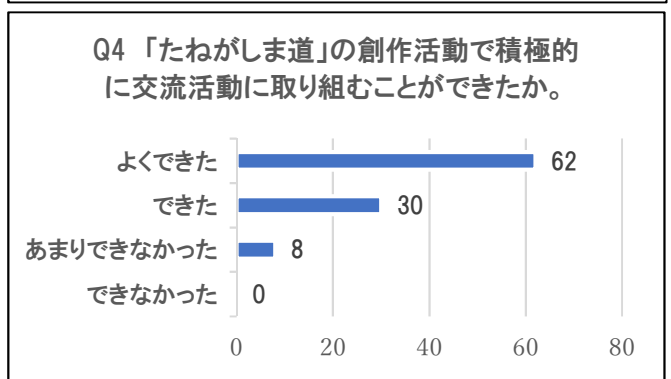
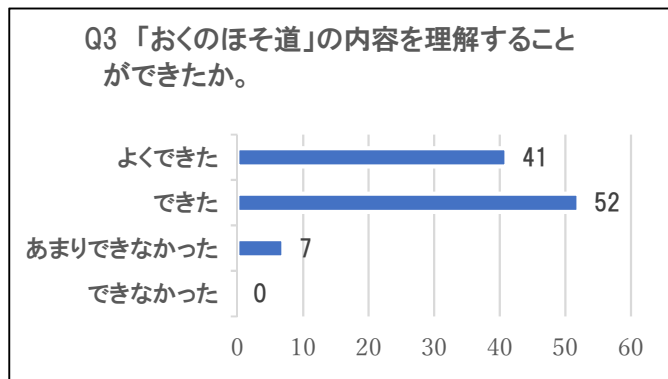
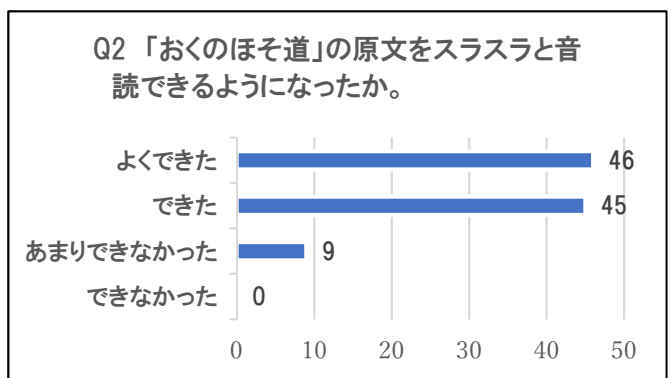
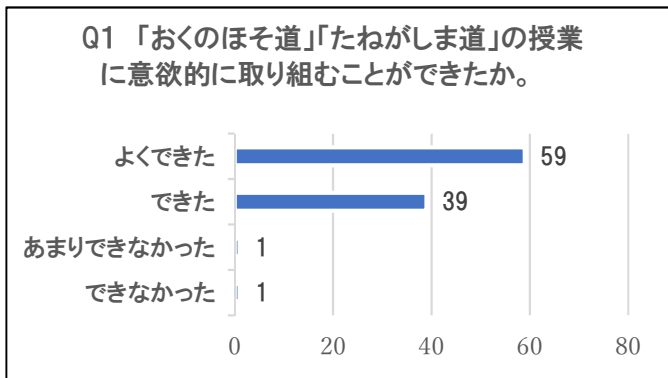
冬 菼	寄 り 浴 う 岩 を	照 ら し け り	か に し て く れ る よ う な 圧 巻 の 景 色 で あ る た 。	間 に 沈 む 冬 の 夕 日 は 水 面 に 反 射 し 心 を 隠 れ て 。	の 繁 栄 を 見 守 っ て く れ て い る の だ ろ う 。	仲 良 く 寄 り 添 っ て い る の 。	二 人 の 岩 は 夫 婦 岩 と し て し め 縄 で 結 ば れ 、	に な っ た と 言 わ れ て い る 。	り で あ る と し て 、 雄 龍 岩 ・ 雌 龍 岩 と 呼 ぶ よ う 。	よ う に 立 っ て い た 。	ぎ た そ の 頃 、 突 然 大 き な 岩 が 仲 良 く 寄 り 浴 う	て し ま う 。	二 人 を 見 か け る こ と な く 数 か 月 過	夜 、 崖 崩 れ に 遭 い 家 も ろ と も 海 に 投 げ 出 さ れ	の 良 い 働 き 者 の 夫 婦 が 住 ん で い た 。	昔 、 崖 の 上 の 地 に 、 達 五 郎 と 達 江 と い う 仲	残 さ れ て い た 。	二 つ の 岩 が あ る 。	こ の 岩 に は 、 と あ る 伝 説 が	種 子 島 の 海 沿 い に 、 雄 龍 ・ 雌 龍 の 岩 と い う	雄 龍 ・ 雌 龍 の 岩 。
--------	----------------------------	-----------------------	--	---	--	--	---	--	---	---	--	-----------------------	---	--	--	---	---------------------------------	--------------------------------------	--	---	--------------------------------------

学習者は「雄龍・雌龍の岩」伝説（視点②）をモチーフにして俳文を完成させた。雄龍・雌龍の岩を見て、夫婦岩がしめ縄で結ばれ、仲良く寄り添っていることを書き（視点①④）、「きっと今も島を見守ってくれるのだろう」、「岩の間に沈む冬の夕日は水面に反射し、見る者を心穏やかにしてくれるまさに圧巻の景色である」（視点③）と表現した。冬の夕日から、季語「冬菼」を用いて、切れ字「けり」で結んでおり（視点⑤）、俳句の学習内容を生かすことができている。

5 研究のまとめ

(1) 研究の成果

今回の学習後、生徒にアンケートをとった。以下は、アンケートを集計した結果である。
(12月12日実施 対象者108人)



Q5 「たねがしま道」の創作活動を終えての感想。

- ・ 芭蕉が種子島を訪れたら、どんな所に行き、どんなことを考えるのかなと思うと、とてもおもしろかった。また、自分自身も種子島の魅力を再発見することができてよかった。
- ・ 身近な地について考えることは、とてもおもしろかった。僕は「天女ヶ倉」について調べた。友達の発表からもたくさんの発見があった。種子島には、自分が思っている以上の歴史がまだまだあることも分かった。
- ・ 初めは難しそうだなと思っていたが、書き始めると思っていたよりも書くことができ、おもしろかった。自分の知らない種子島の名所のエピソードを知ることができてよかった。芭蕉になったつもりで俳文を書いたことで、芭蕉の考え方やものの見方、生き方について深く理解することができたと思う。
- ・ 「たねがしま道」を創作すると聞いて、とても楽しそうな活動だと思った。これを書くことによって、より「おくのほそ道」の表現の工夫を知ることができた。芭蕉ならこの景色をどのように表現するか、どんな順序で書くかなど、自分が普段文章を書くときよりも考えて書くことができた。
- ・ 最初に俳文を書いているときは、あまり上手に書けなかったけれど、交流活動で俳文を読み合い、アドバイスをもらって、自分の俳文には何が足りないのかが明確になった。
- ・ その土地を歴史とうまく絡めながら書くことは難しかったが、芭蕉の俳文を分析して、それを自分の俳文に生かしていくことがおもしろく感じた。

研究の成果として挙げられることは、アンケート結果から、どの生徒も本単元の学習活動に意欲的に取り組むことができたことである。本單元の中では、初めて「書き換え学習」を行い、「たねがしま道」の創作を行った。初めは創作活動に対して消極的な生徒もいたが、学習を進めるうちに、集中して取り組む姿が多く見られた。「たねがしま道」を創作するためには、教科書教材である「おくのほそ道」の内容をしっかりと読み取ることができなければならない。国語のあらゆる力を総動員させ、一人一人工夫された「たねがしま道」を創作できたのは大きな成果である。

また、「たねがしま道」の創作を通して、改めて故郷種子島の魅力について再発見できた生徒も多く、郷土に対する理解を深めるとともに、郷土愛を育むことができたのではないかと考える。

(2) 今後の課題

課題として挙げられることは、交流活動の充実を図れなかったことである。グループ内で相互評価を行ったが、積極的に意見交換ができたグループと、消極的だったグループがあった。主体的・対話的で深い学びをすすめるためにも、今後、グループ内での意見交換の際には、効果的な指導ができるような方法を考えていかなければならないと感じた。

今回は、新たな取組として「書き換え学習」を行った。本研究の課題を、次の研究に生かし、生徒たちにさらに国語の力を定着させていきたい。国語科で身に付けた知識や技能が、他教科の学習に生かされ、また、生徒たちの社会生活に生きていく。基幹教科として国語科は重要な役割を担っているという意識をもち、今後も継続的な研究を行っていきたい。